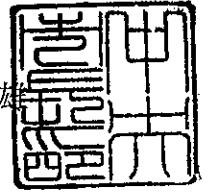


中央建第10－113号

平成20年10月20日

国土交通省道路局長 殿

中央市長 田 中 久 雄



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（提出）

平成20年9月19日付、国道企第37号で依頼のありましたこのことについて、別紙のとおり提出致します。

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

平成20年5月13日に「道路特定財源に関する基本方針」が閣議決定され、これまでの道路特定財源を「一般財源化」することが政府の方針として示されました。この基本方針のなかで、「地方財政に影響を及ぼさないように措置する。また、必要と判断される道路は着実に整備する。」とされていますが、道路整備に対する住民のニーズは依然として高いことを踏まえ、今後とも道路整備予算を確実に確保できる制度を構築すべきであります。

現在、地方においては、高速道路などの主要な幹線ネットワークの形成を始め、防災対策、通勤・通学、さらには救急医療などの面においても、依然として道路整備が必要です。地方の道路は、住民にとって「生活を支え、命を守り、活力の基盤」となるものです。また、過去に整備した道路に関する公債費・維持管理費の増大や老朽化した橋梁やトンネルの維持補修など更に財源を要する事情もあります。

道路財源の「一般財源化」を検討するに当たっては、今後の道路整備や維持管理等に支障が生じないよう、必要な財源を確保していくことが必要であります。とりわけ、地方の道路整備等の財源充当の状況は、「道路特定財源」は4割程度に止まっており、国のように「オーバーフロー」している状況にはありません。このようなことから、道路財源の「一般財源化」に当たっては、地方税分及び譲与税分、さらには交付金・補助金として地方に配分されている財源についても、地方枠として維持するとともに一層の拡充を図ることを望みます。

また、新たな道路中期計画の策定に当たっては、立ち遅れている地方の道路整備の実情に応じて、必要な道路整備が計画的に実施できるよう、地方の意見を十分に踏まえていただきたいと思います。

②-1 地域の現状と抱える課題

○現状

道路は、日常生活や社会経済活動を支える基本的な社会基盤であり、今後とも地域の振興や活性化のため、幹線道路網と身近な生活まで体系的な整備が必要です。しかし、地方の財政状況は厳しく、安易に公共事業の実施を許されない状況にあります。道路整備には、効率性と明確な効果が求められています。

中央市が実施した市民アンケートでは、特に生活道路や歩道の整備など身近な道路環境について、重要度は高いものの満足度が低い状況にあります。また、国道、県道などの幹線道路相互の連絡が、十分に図られていないとの指摘もあります。

○課題

中央市が実施した市民アンケートでは「身近な道路環境」に対する満足度の低さから、狭隘な生活道路の改良や歩道整備など、歩行者や自転車の安全性の確保に取り組まなければなりません。また、市の均衡ある発展のため、旧町村間のアクセスや幹線道路間の接続性を向上させることも課題です。

市内公共交通の中核となっている JR 東花輪駅前については、構内敷地と公道の境界が不明確であり、電車の発着時には渋滞の原因になるとともに、大変危険な状態となっています。

②-2 地域の目指すべき将来像

道路や公共交通機関など、生活基盤の整備を進め、生活環境を向上させ、安心感を更に高めて、こころ豊かな暮らしの実現を目指します。生活基盤については、住民の利便性の向上と魅力と潤いある住環境を提供します。

道路交通の利便性の向上を図るため、歩行者や自転車の安全に配慮した生活道路や歩道の整備を進めます。また、旧町村間の道路アクセスを改善することで、市の一体性の向上を目指します。さらに、市の発展を見据え、新山梨環状道路の整備状況を踏まえ、幹線道路間の接続や幹線道路と市内主要施設をつなぐ市道の整備を進めます。

JR 東花輪駅前において構内敷地と公道の境界が不明確なことについては、早急に対応し、駅周辺の交通環境の改善をはかります。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

山梨県中央市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・交通安全対策	市道玉穂南通り線建設事業実施	道路拡幅と歩道等の設置により交通の安全の向上	
・地域活力の向上	市道田富西通り線未着工区間事業実施	幹線道路へのアクセス向上	
・地域活力の向上	市道田富玉穂大津線延伸事業実施	市内主要施設間のアクセス向上	
・公共交通の向上	JR 東花輪駅前周辺道路整備事業実施	公共交通の快適性、利便性の向上及び渋滞解消	